

1 全国都市緑化かわさきフェアについて

(1) 目的

- フェアの将来像は、「みどりでつなげる、暮らしやすく住み続けたいまち」。
- これの実現に向けて、**みどりが持つポテンシャルを効果的に活用し、これまで培ってきた川崎の強みや各地域の特色を活かし、多様な主体がつながり重なり合うことで、行動するきっかけとしての市民総参加型のフェアとなるよう、取組を展開していきます。**



(2) 幹事会

- 役 割 専門的な見地からの事業の企画、調整、実施等に係る審議助言
- 構 成 各分野に精通した団体・専門家から選出

	分 野	氏 名	所 属
1	学識	福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 准教授
2	協働推進	栗原 国男	東京農業大学地域環境科学部 地域創成学科 非常勤講師 公園緑地協会嘱託
3	出展展示	深町 貴子	園芸家；多摩区在住
4	交通対策	米川 僚一	一般社団法人 川崎市交通 安全協会 専務理事
5	会場運営	渡辺 広之	京都芸術大学芸術教養センター 客員教授

	分 野	氏 名	所 属
6	行催事	反町 充宏	一般社団法人 川崎市商店街 連合会 理事・青年部長
7	広報・PR	大西 絵満	かわさき市民放送株式会社 代表取締役
8	植物調達	矢澤 和洋	セサ川崎農業協同組合 営農経済本部 組織部 組織支援課 課長代理
9	植物管理	今井 伸之	川崎市造園建設業協同組合 副理事長
10	飲食・物販	萩原 ひとみ	一般社団法人 川崎市観光協 会 理事

- 開催状況 令和4年9月30日 **第1回幹事会**（会場計画、協働、共創の取組等）
令和5年1月10日 個別ヒアリング（開催期間、会場計画等）
1月18日 個別ヒアリング（市民総参加、広報等）
2月27日 **第2回幹事会**（進捗状況の報告等）

(3) 基本的事項

- 名 称 第41回 全国都市緑化かわさきフェア
- 主催者等 主 催 者：川崎市、公益財団法人都市緑化機構
実施主体：川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
- 開催期間 **地域資源を活かした個性的な取組を全市的に展開していくため、木や花の見頃などを踏まえて、次のとおり、秋、春の季節ごとに開催期間を設定。**

令和6年10月中旬～11月上旬(20日間程度)
令和7年 3月上旬～ 3月下旬(30日間程度)

(案)

令和6年10月19日(土)～11月17日(日) (30日間)
令和7年 3月22日(土)～ 4月13日(日) (23日間)



**第1回幹事会での
意見等を踏まえて開
催期間を遅らせず**

- 会 場 コア会場：富士見公園、等々力緑地、生田緑地
協賛・連携会場等：駅、商業施設、民有空地、公園緑地、
緑化推進重点地区、パーチャル会場 等

- 統一主題 **「みどりで、つなげる。みんなが、つながる。」**
- 愛 称 **「Green For All KAWASAKI 2024」**
- シンボルマーク みどりをツールに、人と人、**人と暮らしが緩やかにつながっていく様子**を、
区の数である7枚の葉を重ね、**市民の活動(アクション)がさらに広がって
いくイメージ**を、多彩な色でロゴ全体を花に見たてて表現しました。
- 入場者規模、概算事業費 基本・実施計画において決定します。



事業計画	●主な論点・意見等
基本的事項	● 開催期間の具体的な日にちの決定 ・花き調達や地域資源の見せ方等を考慮して検討するとよい。 ・4月1週目は、入学式があるなど動きにくい時期。春の会期を何日か伸ばしてもいいのでは。
1 協働推進	● (仮称)ボランティアの活用項目と募集方法 ● フェア終了後も継続できる協働推進の仕組みづくり ・大きなイベントだと大人中心になりがちだが、ぜひ、子どもたちに参加してほしい ・企業等にこちらからの働きかけが必要。 ・フェアを通じて、ガーデナーのような人たちが育っていくといい。 ・キーパーソンを中心にコミュニティを広げていったほうがよい。 ・地域活動に積極的な方々を巻き込むためには、学校単位や商店街単位など、様々な単位で呼びかけていくことが必要。 ・ガイド、案内等目的・さまざまなメニューをつくったほうがよい。
2 - 1 会場計画	● 主要駅からコア会場間の資源の活かし方（会場ごとの地域特性に応じて検討） ・各エリアで進行中の事業や政策の中に、どう伝えられるかを探りながら、3エリアの図に組み合わせとして示していくとよい。 ・開催期間中に各会場周辺の既存のイベント等とも積極的に連携していくべき。 ・多様性×みどりということを、空間を通して見せていくべき。 ・緑化フェア単体ではなく、Colors, future Actinsなどと紐づけて会場に落としていくことが大事。 ・グリーンインフラについて、レインガーデンだけではなく、市民団体や企業、今までみどりと関係がなかったような様々な方がつながり、これからのインフラになっていくというように、広くスタンスを構えて考えていくことが重要。 ・3会場それぞれの会場の特徴をしっかり出していけるといい。
2 - 2 出展展示	● 開催時期、各エリアのコンセプトに応じた展示内容 ・秋から春にかけて間が空くが、10月に仕込んだものが3月に花開くような、つながりができるとよい。 ・作段階だけではなく、どうやって維持管理していくか、フェア後にどう残していくかを考えてやっていく必要がある。 ・秋から春の中断期間に、市民や企業に入っていたき、その間も一緒に関わる仕組みができればいい。秋に仕込んだものが春に現れるような工夫も必要。 ・単に会場を装飾するのではなく、中断期間やフェア後に地域に残るようなつながりを仕組みとしてデザインできるといい。
2 - 3 植物調達・ 管理	● 地域と連携した効率的かつ効果的な花卉調達の手法 ● 無駄にならない花卉等のリサイクル方法 ・開催時期において、どれくらいの種類や量の花や植物が集まるのかが心配。 ・開催時期で市内産の花々が提供できるかどうか、生産者等から確認がとれるといい。
2 - 4 飲食・物販	● 市制100周年記念事業との連携した飲食物販 ・かわさき育ちの収穫できる量が限られている。地元のものを使用するにも生産量の問題もでてくるので、早い段階から調整が必要。 ・かわさきそだちの具材を活用できるとよい。 Ex) のらぼう菜・かわさきの酒 ・既存コンテンツとのコラボできるとよい。 ・インバクトのある企画があるとよい。 Ex) カレーフェスタ、キッチンカーのスペシャルメニュー
3 会場運営・ 交通輸送	● 交通輸送のあり方 ・アクセスについて、シャトルバス輸送やマイカー対策等を検討し、警察等ともよく調整したほうがよい。 ・会場内の駐車場を利用する場合は、高齢者や障害者に限った運用を適切に広報することでマイカーの抑制につながると思う。 ・環境に配慮している電気自動車等に限った運用もマイカーの抑制に効果的だと思う。 ・区ごとに交通安全協会の交通指導員が10名～20名いるので、緑化フェアの交通誘導にも協力できる可能性はあると思う。
4 広報宣伝・ 行催事	● 市制100周年記念事業との連携、市内と市外でターゲットや媒体を精査した、効果的な広報・PR・行催事 ・参加する方の感情をどう持っていきとおもしろいイベントとなるのかしっかり考えていく必要。 ・ボランティアなど、様々な人呼びかけ、集めていくには、SNS等を活用して早期発信したほうがよい。 ・インバクトのあるイベントや、かわさきのコンテンツを盛り込んだプログラムなど、仕組みで目玉づくりが必要ではないか。

2 各種事業計画について

1 協働推進

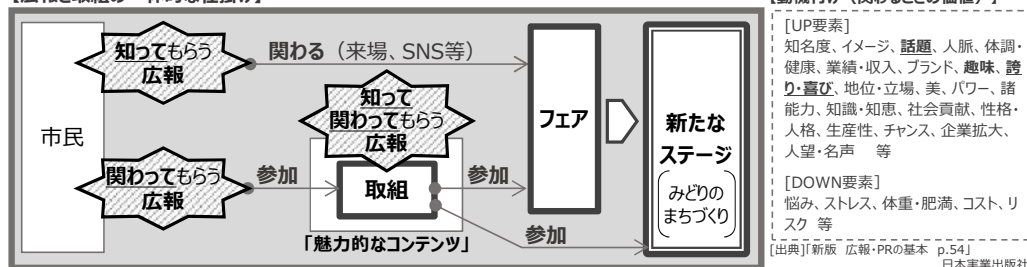
(1) 目標

市民154万人に**知って、関わってもらう！**
(延べ人数)

(2) 事業方針

- より多くの人に知って、関わってもらうため、**既存イベントや取組等を活用するとともに、魅力的なコンテンツや会場における体験・体感を通じて、フェアの開催前から意識醸成を図っていきます。**
- また、**魅力的なコンテンツ等の周知と広報を一体的に行うことで、取組を知り、関わるきっかけとなるよう積極的に情報発信していきます。**

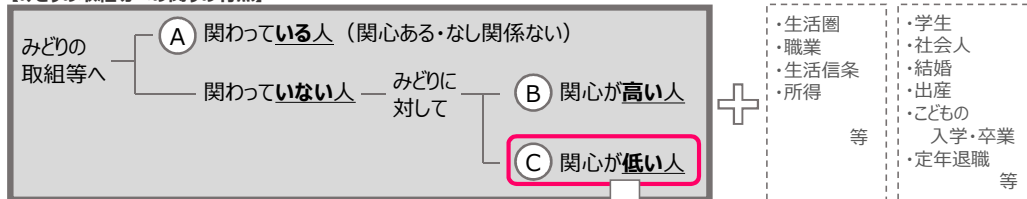
【広報と取組の一体的な仕掛け】



(3) ターゲット層の設定

より多くの人々を『みどりでつなげる』ためには、**各自にとっての関心事からアプローチすることが有効**であることから、現状のみどりの取組等への関りの分類に加えて、**ライフスタイルやライフステージ等に応じたターゲット層を整理**します。

【みどりの取組等への関りの有無】



A・Bの参加の一層の拡大に繋がる取組について着実な推進を図るとともに、特に、**Cに対するアプローチに力点**を置きます

(4) アプローチの設定

魅力的なコンテンツを生む動機付け・きっかけづくりとして、ターゲット層ごとに、**各自の動機付け（関わることの価値）を意識し、きめ細やかなアプローチを設定**していきます。

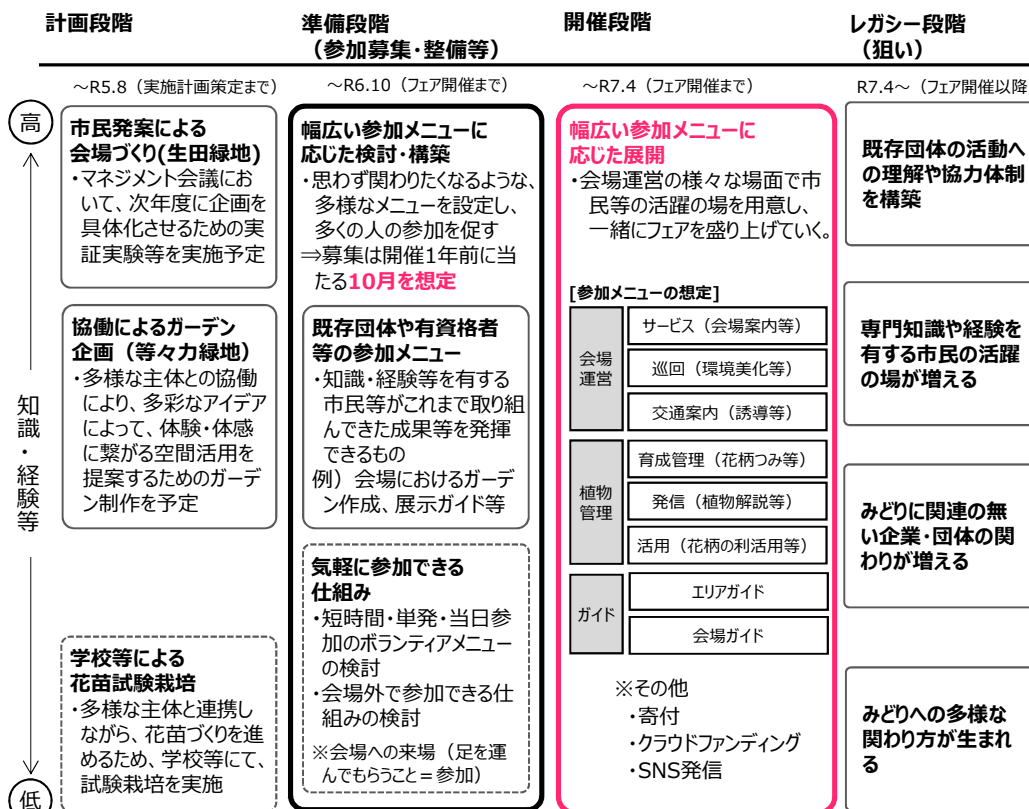
A B

- 関わってもらうことを意識した**周知・広報と取組を展開**
- 思わず関わりたくなるような、**多様なメニューを設定**
例) 体験イベントや各種取組に係るコンテスト 等

C

- 何よりもまず、**知ってもらうことを意識した周知・広報の徹底**
- 知らないうちに 又は いつの間にか関わっている状況を作る**
- みどりと別の動機付けを入口とするコンテンツを用意
例) スポーツ、音楽、健康など幅広く検討。

(5) みどりに関心の高い層（A・B層）をターゲットとした協働推進



機運醸成・関わってもらうことを意識した**周知・広報と取組を戦略的に展開**

【参加することの誇りをつくる仕掛け】

- 共通のアイテムでつながる仕組み**
- ・共通のアイテムによって、**参加した市民が一体感を持ってつながる仕組み**をつくれます。
- ・アイテムは緑化フェアへの関わり方によって、変えていくと共に、**緑化フェア後もみどりの活動等で継続して使えるような実用性とデザイン性を兼ね備えたアイテム**とします。

●ストーリー性を持たせた「愛称付け」

- ・多様な主体がつながり重なり合う「市民総参加の仕組み」の構築に向けて、かわさきフェアを**自分事として捉えるよう意識の変化を促すこと**や**参加によるブランド醸成、仲間意識の醸成等**を図るために、**ストーリー性を持たせた「愛称付け」**を行います。

(6) 今後の課題

①みどりに関心の低い層（C層）をターゲットとした協働推進

- ・共感の得られるコンテンツについては、マーケティング戦略等の取組を参考にするとともに、**積極的に対象者へのヒアリング等を実施し、精度を高めて**いきます。

②「子ども」の参加

- ・緑化フェアを通じて、子どもたちに、みどりを**知って関わってもらうきっかけ**にしたいため、**花苗の育成等のガーデンづくりや、各学校のみどりに関する取組の発信に向けて調整**を進めます。

③「多様な主体」の参加

- ・パルム・メントや、地域包括ケア等の取組と連携し、**障害者等が参加・活躍できる方法について検討・調整**を進めます。

2-1 会場計画

(1) 会場計画の基本的な考え方

○フェア開催意義等を踏まえ、会場計画に必要な視点として、**5つのキーワード**を整理し、**コア会場ではこれらすべてを、協賛連携会場では少なくとも1つを取り入れます。**

- あらゆる市民や来場者が楽しめる会場づくりを行っていきます。
- 生物多様性に配慮した出展・展示、修景等を行っていきます。
- かわさきフェアをきっかけとして、**川崎のみどりを知り、活かす取組を全市的に展開**していきます。

会場計画における5つのキーワード

- ・持続可能 … 未来につながる取組
- ・すべての人 … 市民総参加型のフェア
- ・みどりでつなげる … 人とみどり、人と人とのつながりを感じる
- ・多彩なみどり … 街なかの緑地、多摩川、樹林地等を感じる
- ・多様な効果 … 様々なみどりの効果を感じる

(2) 会場構成の考え方

○かわさきフェアにおいては、みどりの効果等を感じさせる会場を、**大きく次の3つに分けて展開**していきます。

エリア（コア会場周辺）

- ・駅からコア会場までの主要動線付近にある協賛・連携会場などを、**各エリアのコンセプトを具現化して市内外からの集客を見込むエリア**として設定。
- ・多様な主体と連携し、オープンスペースや地域資源を活かし、**みどりの効果を感じながら、安全かつ歩いて楽しめる空間づくりを展開。**

コア会場（富士見公園・等々力緑地・生田緑地）

- ・南部・中部・北部に位置し、それぞれの地域性や特色ある総合公園を会場とし、各エリアのコンセプトを定め、**川崎らしい都市の中のみどりの価値を発信。**
- ・フェアの**主要な行催事等（公式行事、出展展示等）を実施**するとともに、周辺の地域資源や特色を活かし、**多様な主体との協働・共創による様々な取組のショーケース**となる空間を創出し、**市内外から来場者を呼び込む仕掛けを展開。**
- ・グリーンインフラの効果やみどりの新しい価値等を効果的に発信。
- ・各公園の指定管理者と連携を図り、出展展示や行催事を実施。

○ 協賛・連携会場

- ・市内の様々なみどりとオープンスペースを活用し、**日常の活動や取組をフェアを通じて発信**し、市内全域でフェアを盛り上げる一体感を醸成していきます。また、デジタル技術を活用し、誰もがかわさきフェアを体感し、参加できる仕掛けを取り入れます。



- ・各種取組やコンテンツ作成等を通じ、多くの市民、企業、団体が、**みどりに関わる機会を創出。**
- ・フェア開催中、**コア会場及びエリアごとに、主要動線周辺の協賛・連携会場と一体となって、各エリア内の回遊を促す仕掛けを展開。**
※**コア会場を繋ぎ1日で巡る形とせず、会場周辺も含めみどりを歩き歩いて楽しめる会場づくりを実施。**
- ・多くの人が行き交う主要駅及び周辺の協賛・連携会場について、多様な主体と連携し、フェアを通じて取組やその成果を発信。

【2期開催による事業構成の考え方】

- 各会場における**地域資源や特色を捉え**、秋と春それぞれの**季節にあった地域のみどり**をみせていきます。
秋）秋ばら、紅葉 等 春）桜、地域の桜まつり 等
- 中断期間を有効活用し、ワークショップ、会場装飾への参加や各活動の発表会の実施など、**秋に仕込んだ内容が春に芽吹くような、各種取組を展開**します。
- 秋開催に使用する一部花材やコンテナ等は、適切な管理を行い、中断期間や春開催時にも活用します。

【「市民総参加の実現に向けた考え方」を踏まえた協賛及び連携会場の考え方】

- 令和5年度から魅力的なコンテンツ等の周知と広報を一体的に行い、取組を知り、関わるきっかけとなるよう積極的
に取組を進めていくため、大きく協賛・連携会場の枠組みを整理します。※分かりやすい名称を引き続き検討します。

	協賛会場	連携会場
定義	○かわさきフェアの開催期間に 限らず 、フェアの趣旨に賛同して、 盛り上げる取組 を実施する場所 [主に 市民 向けの取組]	○フェアの開催期間中に、 実行委員会主催又は共催事業 として取組を実施する場所 ○会場計画の次のキーワードのうち、いずれか1つの考え方を盛り込んだ会場 [市民及び市外からの来場者 向けの取組]
取組イメージ	○身近な公園や商業施設等を活用した、花やみどりを体験・体感できる取組。 ○道路沿いや公園の花壇等での花植え活動。 等	○多様な主体との協働・共創による、エリア全体でフェアを感じられる取組。 ○多くの人が集まる駅や公共空間を活用した、コア会場へつながる期待感等を醸成する取組。 等
みどりのオープンスペース	 まちなかの花壇や身近な公園など	 河川敷や道路空間など
駅周辺・商業施設 (公園緑地河川)	 駅前のオープンスペースなど	 駅前のオープンスペースなど
民間施設	 企業等によるコミュニティガーデンや事業者緑化など	 商業施設や商店街など

【先進技術の活用による会場展開】

- 先進技術を活用したバーチャル空間の構築や5G、IoTによる各会場とデジタル空間の接続など、誰もがかわさきフェアを体感し、参加できる仕掛けづくりを、多様な主体との協働・共創により行います。

A 知ってもらう（市内の各コア会場等の取組や魅力の発信、フェア自体のPRや取組、成果を発信）

例）高精度PR動画配信によるPR等

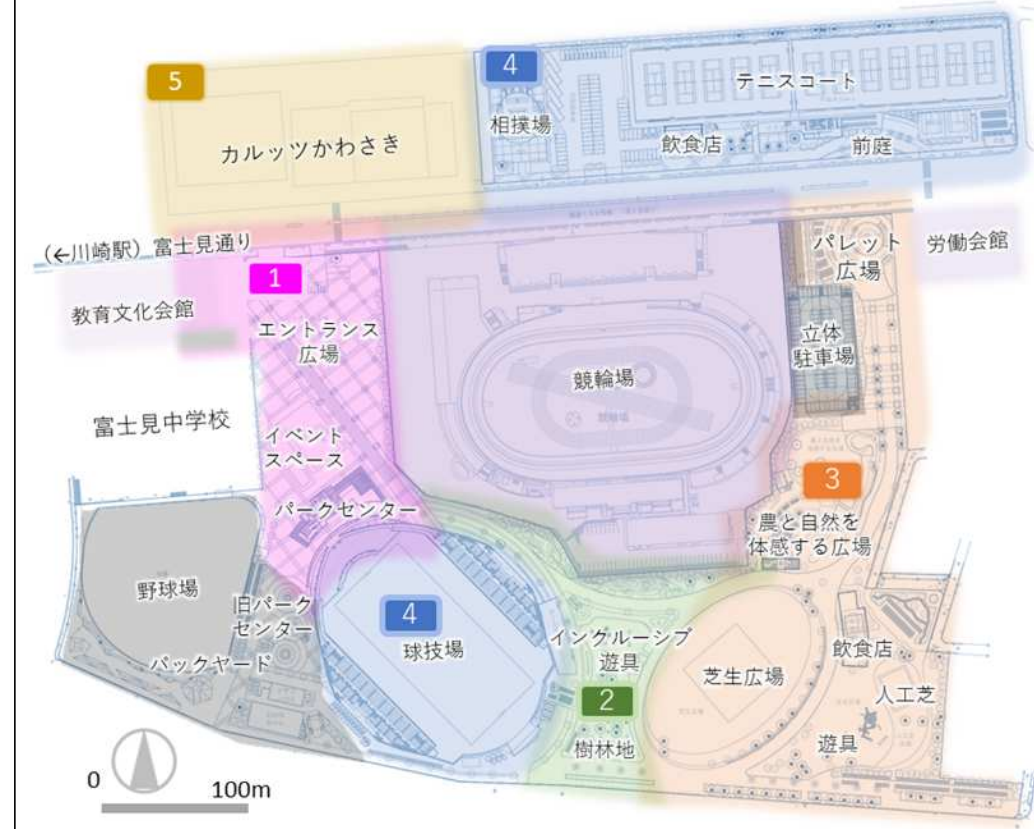
B 体感してもらう（タイミングや場所に捉われず「参加できる機会」を提供）

例）360°カメラによるVR会場等を配信

C より効果的に感じてもらう（会場等で最先端の技術を活用し効果的にみどりを感ずる場を提供）

例）仮想空間によるコンテンツ化、コア会場周辺や協賛連携会場等での体感型のデジタル活用

協働・共創による、川崎の多様な魅力・文化・技術を反映した、みどりとオープンスペースの利活用を展開し、あらゆる人々が、みどりの価値に触れ、実感できる空間を創出します。



日陰環境での
生育状況の確認

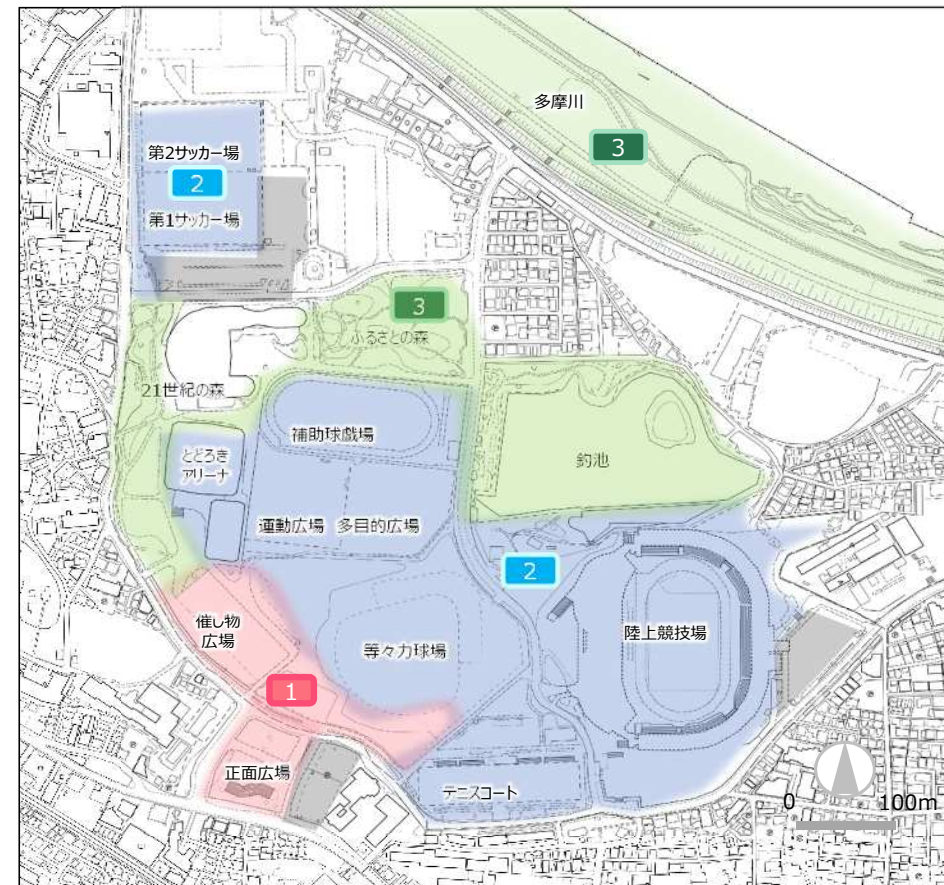
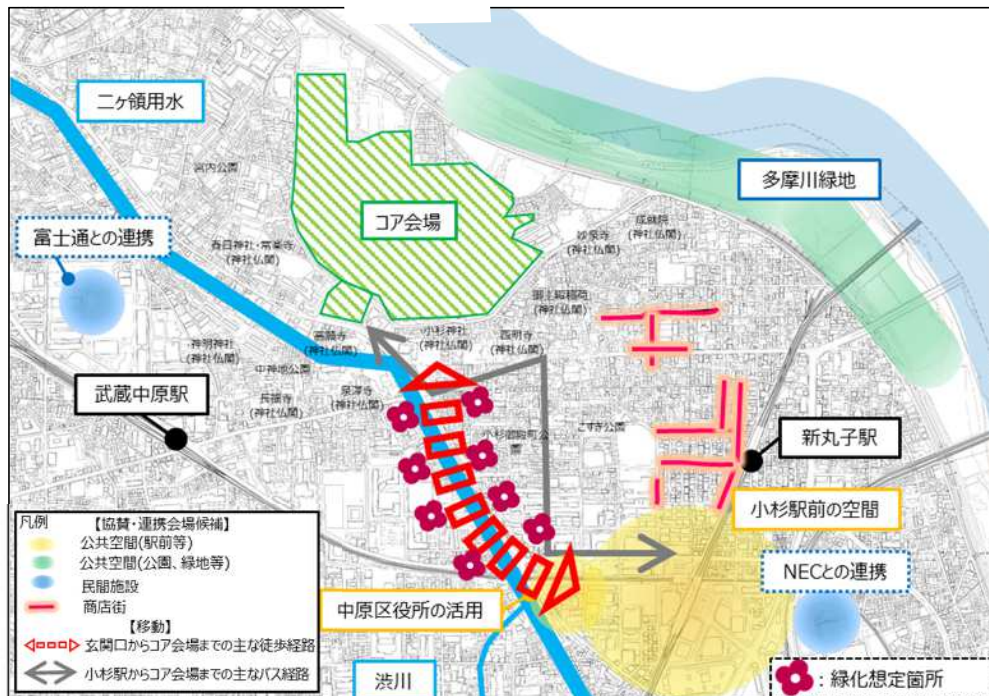


- ・再編事業者と会場内コンテンツ及び会場運営等に関する調整
- ・エントランスゾーンの市民参加の取組内容や展示デザイン等の検討、調整
- ・コンテストをはじめとした出展・展示のテーマ設定及び出展者等の募集に向けた調整

2-1 会場計画

等々力緑地 コンセプト：「体験・体感」×みどり

地域の様々なみどりや水辺等を活用し、みどりを身近に感じ、リラックスしながら自由な時間が過ごせる空間を創出
スポーツやアクティビティを中心とした様々な体験・体感の場を創出し、地域のコミュニティの核となる魅力的なみどりとオープンスペースの活用につながる取組を展開



ゾーニングの考え方	1 体験・体感コアゾーン	オープンスペースを活用した、多彩なみどりの体験・体感を集中的に展開
	2 スポーツコラボレーションゾーン	スポーツ団体等との連携により、みどりに囲まれた空間で、スポーツやアクティビティを楽しむコンテンツを展開
	3 ネイチャーコラボレーションゾーン	みどりの活動団体等との連携により、みどりや水辺等の環境を活かした取組を展開

最寄り駅から会場を結ぶ主な取組内容

● 小杉駅前の空間を活用した取組

- 市民、地域団体、企業等と連携し、駅前広場や駅周辺の民間空地、公園緑地、道路空間など、駅周辺の様々な空間において、フェア後の地域のつながりを生み出す魅力的なオープンスペースの活用につながる様々な取組を展開

● 駅から会場までのアプローチ空間を活かした取組

- 二ヶ領用水をはじめ、身近な公園緑地、水辺空間や神社仏閣、商店街等の地域資源とともに、地域の身近なみどりの魅力にふれ楽しむことで、地域とのつながりを生み出す様々な仕掛けを展開

● 多摩川を活かした取組

- 多摩川の豊かな水資源や水辺環境を活かした遊び・交流の空間の創出により、様々な体験・体感を通じて水やみどりとふれあい、楽しむ取組を展開



取組の具体化に向けた必要事項

- 二ヶ領用水沿い等の地域資源を活かした取組の実施に向けた地域活動団体との調整
- 駅周辺における地域団体や商店街等と協働した連携イベントの具体化に向けた協議調整
- 多摩川の水辺環境での既存イベントや活動団体との連携に向けた調整



取組の具体化に向けた必要事項

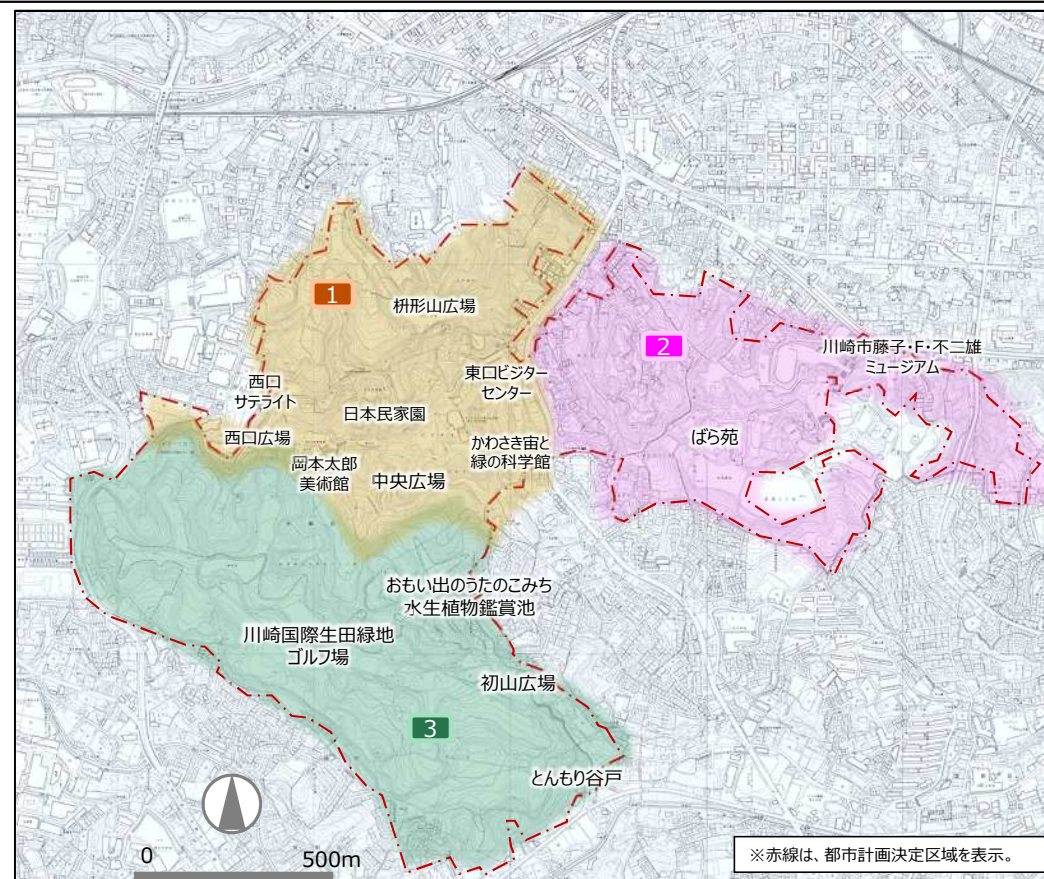
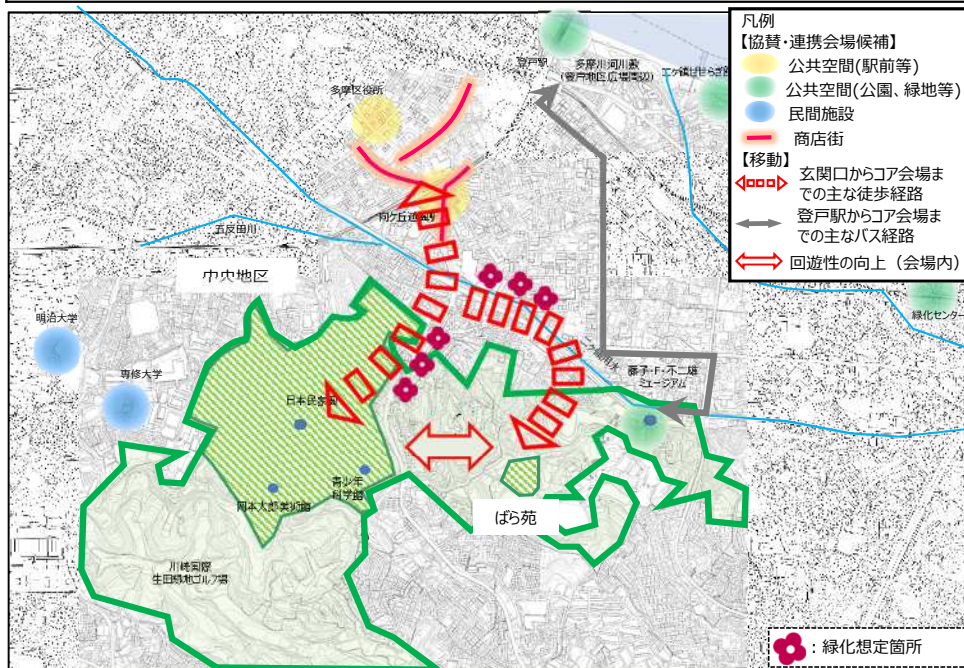
- 新たな指定管理者との会場コンテンツ及び会場運営等に関する調整
- 多彩なみどりの体験・体感を発信する展示やイベントに関する企画を関係者と共に企画、作り上げていく仕組みづくり

2-1 会場計画

生田緑地 コンセプト：「文化・歴史」×みどり

協働のプラットフォームである生田緑地マネジメント会議と連携し、これまで培ってきた協働の取組を活かして、歴史・文化を楽しみながら学ぶ様々な取組を展開

人と自然とのつながりの中で、自然を感じ、楽しむことのできる機会を提供し、新たな協働の担い手の確保や「緑地の存在効用（保全）」と利用効用（利用）の調整により、両者が好循環するしくみにつながる取組を展開



最寄り駅から会場を結ぶ主な取組内容

● 駅前及び会場までのアクセス路を楽しむ取組

- ・市民協働によるばら苑アクセスロードや道路沿いの花壇などの取組を盛り上げ、歩いて楽しめるまちとどりの魅力発信にむけて、周辺の地元町会や活動団体、文化施設等と連携し、花壇づくりやレスト空間の創出、回遊を促す取組を展開
- ・地域等による道路空間を活用した既存イベントとともに、さらなる賑わいの相乗効果を生み出せるよう、地元商店街等との連携した取組を展開

● 周辺等と連携した取組

- ・自然にふれあい、楽しみながら知り、学び場の創出に向けて、川崎国際生田緑地ゴルフ場やコア会場周辺施設等と連携し、体験型プログラムを展開

● 誰もが楽しめる散策機会の提供

- ・生田緑地内やエリア全体の地形や距離等による移動の負担を軽減することにより、回遊性向上を図り、誰もが楽しめる仕掛けとして、既存の路線バス等の活用に加え、新たなモビリティを導入

ゾーニングの考え方	1 緑の保全・文化・利用ゾーン	多様な主体との協働による生田緑地の自然の保全と利用の取組を発信するとともに、各文化施設と連携したコンテンツを展開
	2 花と緑の憩い・賑わい・交流ゾーン	ばら苑を中心に、市民のアイデアを取り入れた新たな魅力づくりに向け、憩いや賑わいを創出
	3 里山・レジャー体験ゾーン	人と自然とのつながりの中で学びや遊び（原体験）、レジャー等のコンテンツを展開



取組の具体化に向けた必要事項

- ・指定管理者との会場コンテンツ及び会場運営等に関する調整
- ・ボランティア団体による取組の発信及び持続可能性を見据えた新たな取組の試行に向けた協議調整
- ・生田緑地で行われている既存イベントや各文化施設との連携に関する、関係者との協議調整
- ・緑地内の移動をサポートする取組の具体化及び関係者との協議調整



取組の具体化に向けた必要事項

- ・地域のみどりを活用した各取組の具体化に向けた関係者への説明、協議調整の実施
- ・周辺施設等との連携の具体化に向けた協議調整
- ・エリア内（駅、中央地区、ばら苑）の移動をサポートする取組の具体化及び関係者調整

2-2 出展・展示計画

(1) 定義

○かわさきフェアにおける展示、出展は、以下のとおりに定義します。

区分	定義
展示	かわさきフェアの開催意義や理念等を具体的に提示する作品等で、主催者（かわさきフェア実行委員会）が制作するもの。
出展	かわさきフェアの開催意義や理念等をふまえ、かわさきフェア実行委員会が定めたルール等に則り、自治体、企業・団体、個人等が、会場を構成する作品を制作するもの。

(2) 出展展示の基本的な考え方

○多様なみどりを活用し、様々な分野の取組と連携して、先進技術等の手法も駆使しながら、**本市の魅力や強みを発信する取組を展開**

○みどりの活動団体等の取組成果や発表の場となる出展展示を企画

○**秋の取組内容が春に芽吹く、つながるような組立を図る**ことでフェア前後及び中間期においても市民参加の取組を展開

○出展・展示に加え催事も含め、夜間の取組やいわゆるインスタ映えスポットの設置など、**魅力ある企画を展開**

会場	展示のイメージ
富士見公園 【多様性 ×みどり】	・「みどりで、つなげる。みんなが、つながる。」取組として、 花苗育成や装飾等を多くの市民が参加し、創り上げていく展示。 ・公害の歴史を乗り越え、新たなみどりの文化を醸成していく「これからの100年」へとつながる展示 例）市民協働で制作するテーマガーデン、川崎の歴史を振り返る展示
等々力緑地 【体験・体感 ×みどり】	・「みどりを体験・体感する」取組として、 様々な企業アイデアを結集し制作する新しいみどり空間の創出。 例）企業協働で制作するテーマガーデン
生田緑地 【歴史・文化 ×みどり】	・ 自然を保全し活用してきた協働の経過や市民団体等の新たな取組を発信 ・ボランティアとともにばら苑の魅力を様々な工夫により発信（秋） 例）市民団体や文化施設と連携したみどりの展示等



市民や企業など様々な方が参加できる取組とします



出展いただく企業、団体を幅広く募り、様々なみどりの価値、魅力を発信します

出展例	概要	規模	時期	会場
出展コンテスト等（屋外）	・新たなみどりの価値・魅力を発信する、市内企業等による出展 ※コンテスト対象 ・（一社）日本造園建設業協会が実施する全国造園デザインコンクール優秀賞作品の庭園の設置	10～20㎡ 25～35区画	秋	富士見
ハンギングバスケット（屋外）	・ハンギングバスケットの出展※コンテスト対象 ・ワークショップの開催。市民協働による装飾の展開。	50作品	秋	富士見
企業・団体等による出展（屋内外）	・環境技術を有する企業やスポーツ団体、学生等による多彩なブース等の設置。	-	秋 春	各会場
緑の活動団体等による出展＆ワークショップ（屋内外）	・みどりの活動団体等によるPRや花や緑への興味関心を高める作品出展およびワークショップの展開。	-	秋 春	各会場
自治体出展等（屋外）	・パブリック空間での新しい緑化の在り方を提案する全国の自治体による出展花壇。（秋） ・市内の緑化団体や近隣企業等と協働した花壇の設置（春）	20㎡×20区画	秋 春	富士見

2-3 植物調達・施工・管理計画



【調達する種類の考え方】

- 市場への影響を考慮し、**フェアの開催期間に通常流通している種類の植物調達**を基本とします。
- 秋と春の中断期間を含めて見せていく装飾を想定し、**秋から春まで開花し続ける品種**を調達します
- 室内空間における装飾を想定し、**市内生産の枝物（ハナモモ・サクラ等）や切花**を調達します。
- フェア以降も継続的に見せていく緑化地の装飾を想定し、**多年草や樹木の調達**を行います。

【調達先の考え方】

- 市内農家からの調達**
 - ・市内農家の生産時期や生産量に配慮した上で、調達を実施
※市内農家の生産時期をフェア開催に合わせて行うことが困難であり、大量に調達することは難しい状況であることから、そのなかでも生産量が多い**パンジー・ビオラなどの調達の可能性がある市内花卉・植物のPRを併せた活用を検討**します。
- 市民協働による花苗づくり**
 - ・富士見公園の**メインガーデン等において、市民の作った花苗の使用を検討**します。
- 市場からの調達**（市内⇒県内⇒県外生産の順番）
 - ・上記で賄えない花卉・植物について、**市内産、県内産、県外産の順で調達を検討**します。

【植物施工・管理】

- 植物施工、管理・運営について、協働した体制づくりの検討を行います。季節に合わせた様々な花卉植物を使用するため、専門性の高い造園組合やみどりの活動団体と連携して行う必要があります。
- パンジー・ビオラ等は、春まで開花し続けるよう市民協働を踏まえた管理体制を整えます。
- フェアで使用した一年草も、たい肥化したり、各地に展開したりするなど工夫していきます。



植物ボランティア管理事例（おかもたフェア）

2-4 飲食・物販計画

【基本的な考え方】

- 市民総参加の視点**から、**みどりに関心の低い人にも足を延ばしてもらい、オープンスペースで楽しんでもらう**ためのきっかけとして、既存の取組とも連携しながら魅力的な飲食・物販を展開します。
- 飲食・物販に参加する事業者等**にも、**緑化フェアのコンセプトに共感し、一緒に創り上げていく主体**として、次に示すような取組への協力を促します。

- ① 生産者や飲食店等と連携・協力して、地域の農産物や特産品等の販売や、ご当地グルメの提供等、**川崎ならではの魅力ある飲食・物販サービス**を提供します。
- ② フードロスの削減や、リサイクル材を使った食器の活用など、**SDGsの要素を取り込んだ衛生面や環境面に配慮したサービス**を提供します。
- ③ 来場者に**みどりを生活に取り入れてもらうための飲食・物販サービス**を提供します。
- ④ **市民が様々な形で参加できる仕組み**を構築します。



例：川崎市内で生産される農産物を多くの方に知ってもらうために作られた「かわさきさだち」ブランド



例：竹材をリサイクルしたカップ（中原区企業制作）

- コア会場に限らず、協賛・連携会場等における飲食・物販についても本考え方を基本とします。
- 公園緑地等の公共空間においては、グリーンコミュニティの形成につながる柔軟なオープンスペースの活用に向けて、各種届出や占用許可等の許認可（例えば、キッチンカーによる販売など）についての考え方も整理していきます。

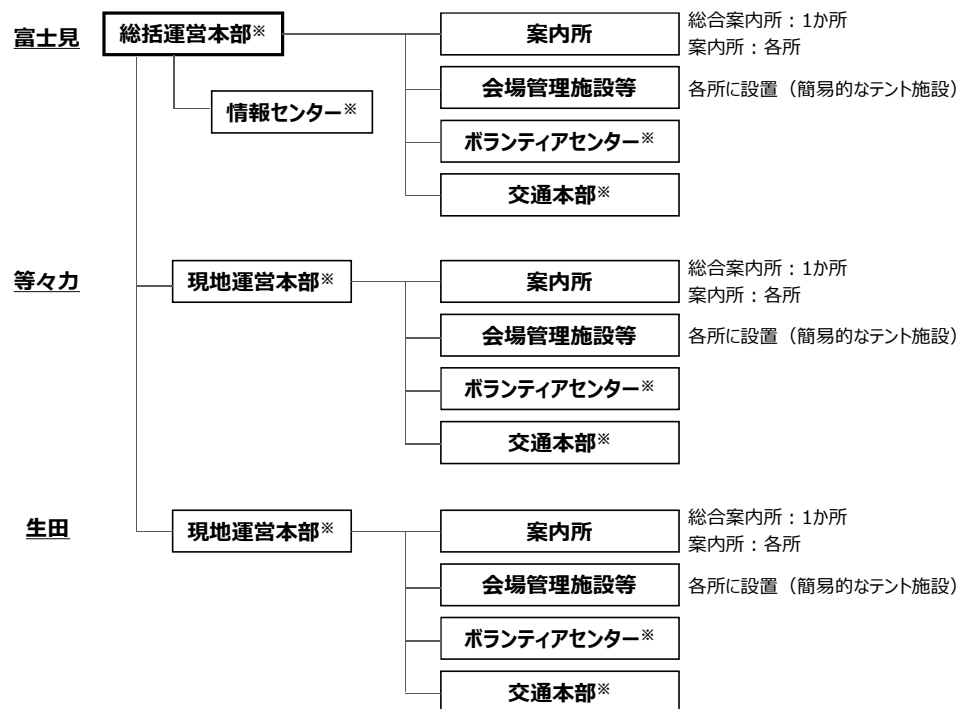
3-1 会場運営計画

(1) 基本的な考え方

- 市民、地域の活動団体、NPO、学校、企業等の多様な主体と連携・協働した会場運営の手法を導入し、環境や安全面に配慮するとともに、誰もが**快適に参加できるような適切な会場運営**を行います。
- 既存イベントにおける会場運営の手法を参考にしつつ、市民等が広く「かわさきフェア」に参加できる**ボランティア活動等の仕組みを構築し**、様々な運営に関わってもらう機会を創出します。
- 様々な技術やノウハウを有する**企業や公園施設の指定管理者等と連携し効率的な会場運営、環境面に配慮した取組を推進します。**

(2) 運営体制及び会場内配置イメージ

○体制案及び施設の配置案については下記のとおり整理しています。 ※既存施設を活用を予定



(3) 運営計画の具体化に向けた今後の課題

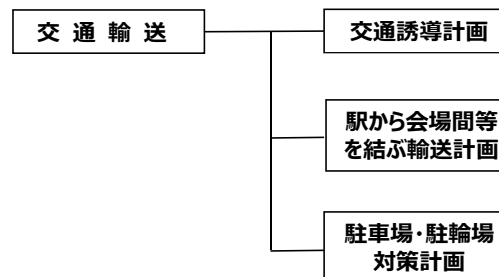
- 市民、既存団体との調整
市民とともに会場の運営を行っていくため、ボランティアの活動内容、必要な人員数を整理し、募集に向けた取り組みを進めます。**みどりの活動団体や既存のボランティア団体と連携し、運営に幅広く関わっていただく仕掛けや連携体制づくりを進めます。**
- 指定管理者や再編事業者との調整
フェア期間中、通常の公園利用者も多くいることから、**会場の管理や運営**（トイレ清掃、ごみ収集、駐車場の運用）が**円滑に図られるよう、指定管理者等との連携について協議調整を進めます。**
- 企業との調整
先端技術等の活用による**効果的な会場運営、環境面に配慮した取組を図るため、実行委員会参加企業等との連携を進めます。**

3-2 交通輸送計画

(1) 基本的な考え方

- 公共交通機関の利用を前提とし、来場者の誰もが、**安心、安全、快適に最寄駅からコア会場へ移動できるよう、交通誘導や輸送体制を整えます。**
- 南部、中部、北部に分かれるコア会場は、3会場を巡ると2時間半程度の所要時間を要することから、**3つのコア会場を1日で移動するための輸送手段は設定せず**、コア会場周辺を含め、それぞれの地域の資源を見てもらうことを想定し、**最寄駅から会場までの道のりにおいて、みどりを感じながら、歩いて楽しめるよう体制を整えます。**
- 地域特性や交通事情、環境への配慮を踏まえつつ、既存の公共交通機関や**公共交通を補完する交通サービスや会場内での移動をサポートする交通サービス**を展開します。

(2) 計画区分



(3) 交通輸送計画の具体化に向けた今後の課題

- 徒歩での安心・安全に会場してもらうための体制づくり
・最寄駅から徒歩で安心・安全かつ円滑に会場してもらうため、**地域の協力や既存団体等と連携した実施体制等の検討を進めます。**
 - 最寄り駅からの交通サービスや会場内での移動のサポートの検討
・各会場とも最寄駅から路線バスやタクシー等の公共交通が確保されていますが、路線バスの運行頻度や土日等ピーク時の来場者数等を考慮しながら、**公共交通を補完する交通サービスの手法を検討します。**
- ※路線バスの運行頻度【日中・平日】 富士見 約20本/1h、等々力 約10本/1h、生田 約2本/1h
【日中・休日】 約15本/1h 約10本/1h 約2本/1h
(遊園南口～緑地入口間)
- ・**生田会場は、施設間が離れていることや会場内に高低差があることから、緑地内の移動をサポートする取組の具体化、及び関係者調整を進めます。**
※R5.2に緑地内（東口ビジターセンター～西口ビジターセンター間）におけるグリーンスローモビリティの試走を実施。体験者から「上りが楽。快適に移動できる。」などの感想があった。
(関係局による生田緑地周辺の既存交通への影響調査を目的とした試験走行に併せて実施)

○駐車場、駐輪場対策

- ・3会場ともに既存のイベント時には、自転車による来場者が多く、既存の駐輪場だけで収容できず、臨時駐輪場を設け対応していることから、フェアにおいても**駐輪場対策**の検討が必要になっています。
- ・生田会場の既存駐車場については、休日に満車となる傾向が多いため、指定管理者と調整を図りつつ、**自家用車による来場抑制策**などの検討を進めます。

各会場イベント来場者
例) 中原区民祭（来場者数：約2.1万人）
多摩区民祭（来場者数：約6.8万人）

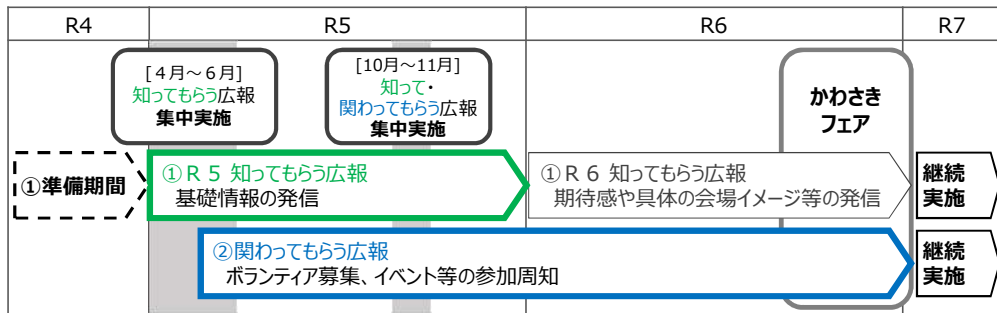


イベント時の駐輪事例

4-1 広報宣伝

(1) 効果的な情報発信の考え方

- 令和5年1～3月は、来年度から本格スタートするための準備期間として、**ポスター・チラシを作成し、既存イベントや企業・団体等への情報発信をできるところから行っていく**とともに、各局区の魅力的なコンテンツを市内外へ情報発信するために**4月から立ち上げる“かわさきフェア専用HP”**を準備します。
- R5は、国の都市緑化月間や市民イベントが多く行われる**4月と10月を集中期間として広報・PR**を行います。
- 「①知ってもらう広報」については、**段階的に意識醸成を図るため年度ごとに目的を明確**するとともに、**100周年記念事業の象徴的事業として、取組を知り、関わるきっかけとしても積極的に情報発信**します。
- 「①R5知ってもらう広報」については、A・Bのターゲット層に向けて、改めて**フェアの開催に向けて実感を持ってもらえるよう**、既存イベントや企業・団体等々の機会を捉えて、出来るところから情報発信を行っていきます。
- またCのターゲット層に向けて、**何よりもまずかわさきフェア自体知ってもらうため**、様々な年齢層ごとに関心の高そうな話題、趣味など、みどりは**別の動機付けを入口とするコンテンツを用意した上で、広報・PR**します。
- 「②関わってもらう広報」については、A・Bのターゲット層に向けて、**思わず関わりたくなるような多様なメニューを設定**し、広報・PRと取り組みを戦略的に展開します。



(2) 各広報のポスター・チラシのデザイン等の考え方

①知ってもらう広報

- R5 フェア開催の認知度向上のため、開催期間や会場等の基礎情報やロゴ・テーマ、都市の中の川崎のみどりの価値等の伝えたいメッセージをしっかりと発信**します。
- 作成したポスター・チラシを既存イベントや取組、企業・団体等への情報発信に活用するとともに、**ウェブサイトやデジタルサイネージ等におけるデジタル媒体にも反映**していきます。
- 早速に情報発信するため、先行して、情報をフェアの基礎情報や伝えたいメッセージに絞った「**通常版**」を作成した上で、その後、協賛企業ロゴ入り版を作成します。

- R6 フェアへの期待感を促進**するため、**パースや写真等を用いて具体の会場イメージを分かりやすく発信**します。

②関わってもらう広報

- 企業共創や市民協働等の取組と伝えたいメッセージを掛け合わせることで情報発信**します。
- チラシ等へ**QRコードを掲載**するなど、**気軽に情報を取得し、参加を促すような仕掛け**を入れます。
- なお、**かわさきフェア専用HP**においては、**各局区における既存のイベントや地域活動をPR**することで、**コア会場以外においても多くの人へに関わってもらえるよう取組を推進**します。

(ポスター案)



(4) 機運醸成に向けた取組

市内のおすすめの花やみどりのスポットのヒアリング

約300枚程度の写真等は、HP等への掲載するなど活用を検討



既存イベントとの連携



コケ玉づくり体験@カワバ

各区連携による普及啓発



4-2 行催事計画

(1) 基本的な考え方

- 既存の催事や地域の取組と連携した市民発信型の行催事をかわさきフェア開催前から展開していきます。
- 川崎の特色ある自然の魅力など、多様なみどりを知り、体感できる取組を推進していきます。
- これまでの100年で培ってきた川崎の魅力や強みを発信する取組を行います。
- 市制100周年に合わせた記念事業などと連携し、かわさきの魅力を活かした取組を推進します。
- 新たなみどりの価値や、みどりを活かしたライフスタイル提案などを行い、「川崎らしさ」を「市民総参加」で推進します。

(2) 行催事の区分と定義

区分	主催者行催事		協働催事
名称	公式行事	主催者催事	協働催事
定義	実行委員会が主体となり実施する公式行事や催事		実行委員会が認めた企業・団体・行政等が実施する催事
運営主体	実行委員会		実行委員会以外（一部共催も想定）
事業費負担	実行委員会		事業者（一部を実行委員会が負担するケースも想定）

(3) 行催事の構成

区分	名称	会場	内容（実施予定日）
主催者行催事	公式行事	内覧会	秋・春の会期直前にマスメディア等を対象とした内覧会を実施（秋・春の開催日の2、3日前に実施予定）
		総合開閉会式	秋の開会及び春の開会を記念とした式典を実施（開会式：R6.10/19、閉会式：R7.4/13）
		セレモニー	・秋・春の会期開始時及び終了時にセレモニーを実施 ・1年前イベント等の実施や、来場者人数等の達成を記念して実施
		全国都市緑化祭	皇室をお招きして開催する全国都市緑化フェアの中心的行事 ・庭園展覧コンテスト及びみどりの社会貢献賞の表彰、記念植樹など
	主催者催事	シンポジウム・フォーラム	みどりの普及や市民参加を目指したシンポジウム・フォーラムを実施 例：・くまもと花博シンポジウム ～緑の魅力の再発見と新たな緑のまちづくりの展開を目指して～
協働催事	その他催事	各コア会場	各コア会場の目的やコンセプトに即した催事を実施 例：・ナイトマーケット等の夜間催事（富士見公園） ・花いけバトルやフラワーワークショップ等の体験催事 ・パークヨガ・パラスポーツ等のアクティビティやアウトドアコンテンツ
		●各コア会場・エリア ●協賛連携会場	●各局区や企業等と実行委員会が連携した催事 例：・公園の夜間の活用につながる夜の催事（ナイトマーケット、プロジェクションマッピング等） ・コア会場で実施する既存催事（環境技術展、市民まつり等） ・公募により会場の一部を企業等に企画してもらう催事 ●各局区や企業等が主催し、実行委員会がPR等の面で応援して開催する催事 例：区民祭、夢見ヶ崎動物公園まつり、わんぱくの森の既存事業等

3 全体スケジュール

